



「地域医療連携推進法人」設立を合意 [関連記事5ページ]

学長就任にあたって



北海道医療大学学長 浅香 正博

この4月より、新川詔夫学長の後任として北海道医療大学の学長に就任しました。私は1972年に北海道医学部を卒業してから、ほぼ40年間を北海道大学で過ごしてきました。学長になる前の半年間、副学長として北海道医療大学に勤務させていただき、国立大学とは全く異なる私立大学の運営について多少なりとも知ることができました。入試の可否に十分時間をかけて判定していることや大学の予算の大半が授業料収入で国からの運営費交付金はほとんど期待できないことなど私にとっては驚きの連続でした。私立大学は国立大学のような国からの補助をあてにできないために自助努力を行って多くの高校生に受験してもらい、入学定員を常に充足していかなくては成り立たないことがよく理解できました。これから北海道医療大学をさらに魅力のある大学に発展させ、入学希望者が全国から集まってくれるようにしていきたいと考えております。

今まで本学から世に輩出した1万9千名近くの卒業生のたゆまぬ努力によって全国の医療系大学の中で本学の地域貢献度は常に上位に位置しており、社会から高く評価されております。北海道医療大学生は卒業時に国家試験などの資格試験をパスしなければいけないので、入学後も勉学に励まなくてははいけません。素晴らしい環境を有する本学は勉学にとっただけではなく、クラブ活動やボランティア活動などにも大きな力になってくれると思いま

す。入学後、数年間で人生の方向の大部分が決まる学生の皆さんに思いを馳せる時、大学の最高責任者としての責任の重さを感じます。北海道は明確な四季を持つ素晴らしい大地です。移り変わる季節の中、勉学に励みつつ学内外で多くの思い出を作り、充実した学生生活を送ることができるこの恵まれた自然環境において最良の教育を実践することにより、北海道医療大学を全国から医療人を目指して俊英が集まる希望に満ちた大学へ発展させることができると信じています。そしてこのことが、私が赴任した大きな目的の一つでもあります。

北海道医療大学はこの4月、札幌市で2病院を運営するカレスサッポロと「地域医療連携推進法人」を設立する合意書を締結しました。設立予定の新法人では、一歩進んだ地域医療体制実現をめざすとともに、本学学生の実践教育の強化を図ります。カレスサッポロの運営する2病院(約400床)は、本学の関連病院として臨床実習の場となり、実践教育の質向上を図ることが期待できます。また、新法人の設立で教育と臨床の一貫した実習体制構築が可能となり、より深く効果的な多職種連携教育が実現することを期待しています。このことにより学生諸君のモチベーションがさらに高まり一層勉学に励んでいただけることを期待しております。

これから北海道医療大学の発展に少しでも寄与していきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いたします。

CONTENTS

学長就任にあたって	1
教員役職者 新任教員 昇任教員紹介	2
2016年度入試結果報告	3
北市伸義教授が「アジア太平洋眼科学アカデミー業績賞 (Achievement Award)」を受賞	
国家試験結果報告	4
就職状況結果報告	
2016年4月カレスサッポロと「地域医療連携推進法人」設立を合意 株式会社ロイズコンフェクトの山崎社長ら4名が来訪	5
2017年度入試概要	6
私の学生時代	8
OB訪問 [言語聴覚療法学科]	9
学校法人東日本学園	10
○2015年度決算	
○2016年度予算	
新入生アンケート結果報告	12
EDITOR'S NOTE	